

シクラメン安定生産のための「しおれ症」対策

栽培研究部 花きグループ 神門卓巳

シクラメンは本県の主要鉢物品目として生産されています。また、生産者の半数は後継者や新規生産者であり、今後とも高品質、安定生産が重要な課題となっています。このような中、平成 17 年に出荷直前から出荷後に葉が萎れる「しおれ症」が多く報告されました（図1、図2）。そこで、「しおれ症」について試験研究を行い、その原因究明と安定栽培技術の確立を行いました。



図1 「しおれ症」株の症状



図2 「しおれ症」株(左):地上部が大きく根が少ない

○結果概要

①「しおれ症」は、地上部の葉・花(T)と、地下部の根(R)の割合(T-R率)が高い場合(10以上)に発生することを確認しました。

②地上部は、8月以降に施用した窒素、カリ量に比例して大きくなりますが、地下部は、鉢により生育が制限されるため(根域制限)、施肥量に関係なくほぼ一定の生

育量となります。そこでT-R率を制御するためには、地上部をいかにコントロールするかが重要で、目標の草姿になるように必要な施肥量を決め、計画的に与える必要があります。(標準は8月以降の総窒素成分量0.7g/5号鉢程度になります)

③地下部は、高温期の乾燥ストレスで生育が阻害されるので、十分に水分供給を行う必要があります(表1、図3)。その対策として、鉢替え(6月中下旬)後、根が鉢全体に回る7月中旬頃からの早期の底面給水開始が有効です。既存の8月中旬以降開始の底面給水管理と比較しても、生育に差がなく省力化が図れます。

④現在栽培で用いられている培養土は、固相率が低く(14%)粗孔隙が多いので鉢内へ酸素が十分に供給され、底面給水に適した培養土であることがわかりました。

○おわりに

「しおれ症」対策として高温期の水分供給と施肥管理の適正化が図られた結果、シクラメンの出荷率は「しおれ症」発生時に比べ約10%向上しました。今後も一層の生産性向上のため、シクラメン栽培を検証していきます。



図3 高温期の灌水量の違いが根の生育に与える影響

表1 高温期の灌水量の違いが生育に及ぼす影響 (9月5日調査) 品種:ビクトリア

処理区	株幅 (mm)	葉数 (枚)	塊莖径 (mm)	根本数 (本)	生体重(g)			T-R率 ^y
					葉	根	塊莖	
多灌水区	255 a ^z	41	46.3 a	109	126.8	32.7 a	38.9 a	3.9
少灌水区	257 a	37	36.9 b	93	117.6	23.5 b	22.4 b	5.0
対照区	241 b	36	42.2 a	79	122.8	28.0 a	29.3 a	4.4

z 同一測定項目における異なるアルファベットは、Turkey法による多重比較により5%水準で有意 (n=10)

y T-R率は、葉重(g)÷根重(g)